

全国文学館協議会共同展示 第2回

3.11 文学館からのメッセージ —天災地変と文学

わが国は「方丈記」に遡るまでもなく、毎年のように各地を襲う大小の天災地変による災害を体験して、多くの痛切な感銘を与える文学作品を世に送りだしてきた。

2011年3月11日、東日本大震災による被害は、地震・津波の規模、死者・被災者の数、原子力発電施設のメルトダウンによる放射能汚染の深刻さなど、わが国がこれまで経験したことのない苛酷な被害をもたらした。たとえば原子爆弾が投下された広島でさえ、二年後には復興の目途が立っていたのに、3.11災害の場合は、被災者の多くがまだ生活再建にふみだすことができないのみならず一部の放射能汚染地域は依然として立入りできず、放射能汚染水の処理、汚染物の処置なども解決できないまま、福島原発を廃炉にするには五十年を要するといわれている。

このような状況下で、すでに数多くの文学作品が創作されている。これらの文学作品を収集、展示し、世人に広く周知していただくことは文学館の責務であると考え、全国文学館協議会は、できるだけ多くの加盟館が同時に共通テーマによる文学展を催すこととした。

この文学展のメッセージが、3.11をふくむ天災地変の死者たちへの鎮魂と哀悼、被災者への慰謝となることを期待している。

全国文学館協議会 会長 中村稔

主催：全国文学館協議会

本展は、全国文学館協議会加盟館が共通テーマのもとに展示を同時開催する企画です。各館の展示概要およびスケジュールは裏面の一覧をご覧ください。